



## ラーメドの秘密

●ヘブル語で最も背の高い文字は「ラーメド」(לָמֶד)です。ヘブル語のアルファベットには 22 の文字があります。その一つ一つが、古代においては、絵文字(象形文字や楔文字と同じような文字)で書かれていました。たとえば、「アーレフ」(א)は語源的には「牛の頭」を表現していました。牛は力ある動物です。そのところからリーダー的な存在をも意味しています。「ベート」(ב)は「家」、「ギメル」(ג)は「ラクダ」を表わしていました。「ラーメド」は語源的には牛や羊を追うための「突き棒」「杖」などを意味しています。古代の農耕では、「突き棒」「杖」を用いて、牛を訓練していました。「ラーメド」の上に突き出ている部分はヘブル語の「ヨッド」のように見えますこれは「手」を表わす絵文字です。「ラーメド」の頭の部分は人が手に取った姿を想像すると、先のとがった部分は、牛を追い、訓練し、仕事をするためとても良い道具であることがイメージできます。

●「ラーメド」という文字は、「教える」という動詞の土台となる文字です。「ラーマド」(לָמַד)は「教える」と「学ぶ」の両方の意味をもっています。「ラーマド」の基本形は「学ぶ、習う、まねる」という意味ですが、強意形のピエル態では「教える、鍛える、育てる」という意味になります。教えることと学ぶことは密接な関係があります。教える者は常に学び続ける者でなければなりません。私たちは生涯学び続ける者であるという偉大な教訓がこのことばの中には込められています。生涯、学び続ける者は自分を豊かな者とすることができます。そして自分が学んだことを他の人に分かち合うことに情熱を注ぐことのできる者は幸いです。

●「学ぶ」ことは、常に、地道な訓練と忍耐を要します。それは、真理を求める者にとって必要なプロセスです。決して受け身にならず、自ら積極的な生き方をするところのできる者となります。人に祝福を与えようとするならば、まず自分自身が汗を流さなければならないのです。苦勞を重ねることによって、与えることの感動を味わうことができるようになるのです。

●「学ぶ能力」は、神が人間に与えられた尊い賜物です。ユダヤ人にとって学ぶことは、常に聖なることと見なされてきました。ユダヤ人は子どもかまだ幼い頃から聖書を熱心に教育します。子どもたちは神みことばを学び、それを身に着けて実践することを会得していくのです。それは彼らが昔からなされ続けてきたことでした。

●動詞「ラーマド」の形容詞「リムド」(לָמֵד)、名詞「タルミッド」(תַּלְמִיד)で、「弟子・生徒」を意味します。この「タルミッド」という言葉は口伝律法を意味する「タルムード」(תַּלְמוּד)と同じ語根です。弟子とは、常に、教えられる者、学びの訓練を受ける者のことです。訓練を受けない弟子などいないように、学びの訓練こそ、学ぶ者、やがて教える者を造り上げていくのです。訓練を怠る者は決して弟子とはなれません。

「リムド」ということばが聖書で最初に使われているのは歴代誌第一、25 章 8 節です。

「彼らおよび主にささげる歌の訓練を受けた(ラーマドのブアル(ピエルの受動態分詞)彼らの同族—彼らはみな達人であった。—の人数は 288 人であった。)

●「タルミッド」ということばは、音楽を学ぶ学生に対して用いられました。音楽は単なる理論ではなく、演奏されてはじめて楽しむことができます。訓練を通して音楽を楽しむ必要があります。賛美も楽器を自由に弾くことができはじめて楽しむことができます。すべての弟子訓練は、生涯、学ぶ者となるためのものです。みことばを学ぶ者は、常に、神とそのみこころを行なうことについての訓練を受ける必要があります。主の弟子となることは、高い水準が求められます。ですから、弟子としての訓練を受ける者は、常に、熱心さを伴う必要があります。



●「アーレフ」と「ラーメド」を組み合わせると「エール」、つまり「神」を意味します。「エール」とは「突き棒をもったリーダー」という意味です。「エール」とは、私たちが正しい適切な方向へと歩ませ、目的にそって必要な教えと訓練を与えながら、私たちを導く者を意味します。

●イエスは常に御父の教えに従って歩まれました。御父くびきを負って歩まれたのです。そのイエスが「あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい」と招いています(マタイ 11:29)。イエスのくびきを負うことは、イエスにつながり、イエスにとどまり、イエスの教えに従って学ぶことを意味します。イエスが用いられる「突き棒」は不必要な過度な痛みを負わせるものではなく、イエスと呼吸を合わせる訓練なのです。訓練を通して、結果的には、「負いやすい」くびきとなるのです。

●主の弟子にとって最も重要なことは、神のみことばを学ぶことです、それは実行することを視野に入れた学びでなければなりません。昔、エズラはバビロンから帰還した民に対して、みことばを学ばせることに心血を注ぎました。それを実行し、そしてみことばを教えたのです(エズラ 7:10)。

●主の弟子たちは、御霊の助けによって神の指図を学び取る者たちでなければなりません。御霊は最高の教師です。ユダヤ人は長い間、学ぶことが礼拝の最も高尚な形であると信じてきました。神のみことばを学ぶこと、神の教えである「トーラー」を学ぶことは、礼拝の一つ、あるいは神への服従のかたちなのです。

●「突き棒」である「ラーメド」を通して、絶え間ない学びに身をささげる人は、常に、前進し、向上します。それによって霊と魂はより豊かになり、祝福することができるようになります。霊的な知恵が豊かになり、また深くなるにつれて、学ぶことも多くなるのです。

【新改訳改訂第3版】Ⅱテモテ 2:15

**あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。**